

成長をつづける山口大学

大学院技術経営研究科(MOT)

平成17(2005)年4月、西日本唯一の MOT 専門職大学院として山口大学大学院技術経営研究科が新設された。技術経営(Management of Technology:MOT)とは、「技術を事業の核とする企業・組織が次世代の事業を継続的に創出し、持続的発展を行うための創造的、かつ戦略的なイノベーションのマネジメント」を意味している。

地域の社会人(企業内で相応の実務経験を積み、イノベーション志向の部門でマネジメントを行う人やその予備軍、さらに新事業創出を担うベンチャー起業家予備軍など)を主たる対象者として、地域経済の自立的発展と連鎖的イノベーションの創出に貢献できる人材を育成することを目的としている。定員は15名で院生の多くは西日本を中心とした企業の経営者や行政関係者などである。

宇部・広島・福岡の3教室体制で展開

〈社会人対象〉

広島教室 土曜日を中心とした授業で
福岡教室 技術経営修士の学位が
取得できます

宇部教室 宇部教室は秋入学
平日、全科目英語による授業

大学院技術経営研究科ホームページより

共同獣医学部

平成24年4月、山口大学と鹿児島大学に共同獣医学部が誕生した。共同獣医学部は双方の大学が持つ教育研究資源を有効に相互活用し、得意とする分野の獣医学教育を両大学の学生に等しく提供する共同教育課程であり、大学設置基準等の一部を改正する省令(平成20年文部科学省令第35号)に基づく制度を活用した全国初の共同学部である。

獣医学すなわち動物医学は、生物学に基礎を置く応用科学であり、人類と動物の福祉に貢献することを理念とし、これを達成するための学理の探究と技術の開発を目的としている。この理念に基づいて、共同獣医学部は、「深い知識と高度な技術を備えた専門性の高い獣医師」、および「幅広い教養と高い倫理観を有する、人間地球社会を俯瞰できる人材」を養成する教育を目指している。さらに、獣医関連分野のグローバル化を念頭に、欧米獣医学教育の評価に耐える獣医学教育体制の構築を開始している。



附属動物医療センターでの診療

躍進する附属病院

医学部附属病院は、山口県立医科大学時代の昭和19(1944)年に設立され、山口県の中核病院として発展してきた。現在では、全ベッド数736床、26診療科と23の診療部を擁し、あらゆる分野の疾患を総合的に診療できる県内で唯一の特定機能病院となっている。

平成12(2000)年、国立大学病院としては最初に設置された高度救命救急センターでは、毎年約1,000例の高次救急患者の診療にあたり、宇部市と提携しているドクターカーや山口県ドクターヘリの基地病院として救急医療体制を強化し、全県下・他県からの重症患者の治療に対応している。

また、平成19年に「山口県がん診療連携拠点病院」、平成21年に「山口県肝疾患診療連携拠点病院」、平成23年に「総合周産期母子医療センター」に指定された。患者中心の透明性の高い医療を提供し、変化する社会の要望に応えうる全人的医療のできる有能な医療人の育成と、医学・工学・生命科学の英知を集約した新しい診断および治療法の研究開発に邁進している。

救急医療専用ヘリコプター ドクターヘリ

平成23年1月、運行がスタートした。基地病院である附属病院に常駐し、消防本部からの要請を受けて山口県全域に出動する。救急医療用機器等を装備しており、救急医療専門の医師と看護師を救急現場にいち早く運び、直ちに治療を開始し、高度な医療機関に患者を搬送することが可能となった。



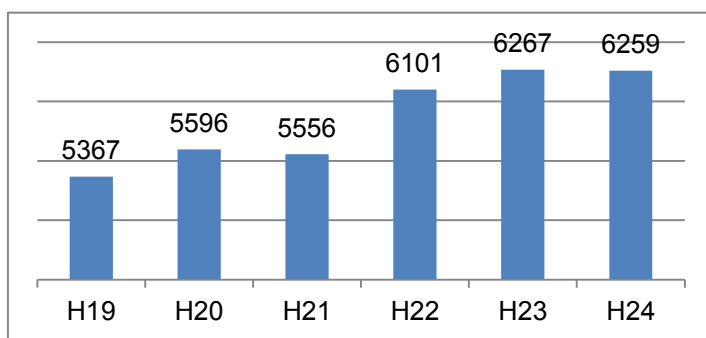
ドクターヘリ

手術支援ロボット ダヴィンチ

平成24年8月、内視鏡下手術用の支援ロボット「ダヴィンチ」が導入された。この最先端の医療機器は、(1)従来の開腹手術などに比べ傷口を最小限とすることができるため、患者への負担は少なく社会復帰が早い、(2)立体画像で手術を行うことができるため、より精密な手術が可能、(3)カメラで術野を拡大して見ることができるため、繊細で確実な手術が可能となるなど、多くのメリットがあげられる。



ダヴィンチ操作時の様子



手術件数の推移

ドクターカーやドクターヘリの導入による緊急手術、ダヴィンチ(ロボット支援手術)やハイブリッド手術室の設置による高度な手術件数が増加している。